

流れ星をみつけよう

ふたご座流星群活動

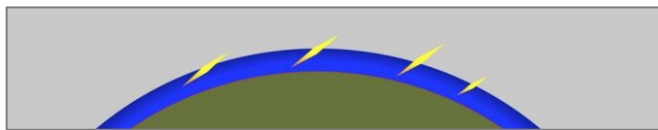
12月中旬、空高く流星が飛ぶのが見えます。ふたご座流星群の活動期です。今年は月明かりのため、多くはみられませんが、それでも流星の初体験には、ぴったりです。望遠鏡はいりません。ふたご座を中心に、流星が流れます。夕方から深夜にかけて、月が昇ってくる前、東の空に注目です。

極大日 12月14日
月の出 23時半ころ

■ あなたしか見ていないかも

流星は、宇宙から飛び込んできた小さな石のかけらが、地球の大気と衝突して光る現象です。その高さは100kmくらい。もっとも身近な天文現象なのです。

地球の大きさは、直径13,000kmほどです。30cmくらいの地球儀を使って、流星の光る高さを示してみると、表面から2mmくらいになります。言うことは、地球の丸さから計算すると、福島で見える流星は、北海道や東京では見ることができないのです。また、流星が光って消えるまでの時間は、1秒より短いことがほとんどです。ですから、その流星は「あなたしか見ていない」かも知れないのです。



■ 毎年見える流星群

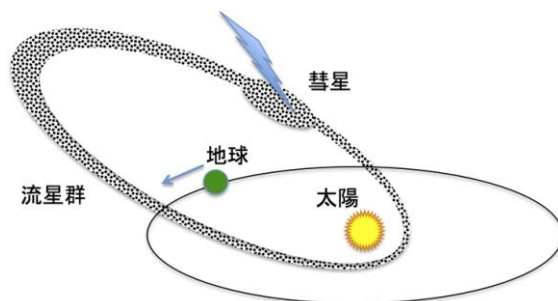
しぶんぎ座	1月	2 ~ 5日
みずがめ座	5月	3 ~ 10日
ペルセウス座	8月	7 ~ 15日
オリオン座	10月	18 ~ 23日
ふたご座	12月	11 ~ 16日

■ あなたが見届ける最期の輝き

小さな石のかけらは、どこから飛んできたのでしょうか。大きさは数mmから1cm程度です。太陽系には惑星のほかに、小さな天体がたくさんあります。彗星や小惑星がその代表です。どちらも直径が10km程度で、彗星は氷に石のかけらが混じった天体、小惑星は岩石のかたまりです。彗星は細長い軌道を持ち、太陽に近づいてきます。すると氷が溶けて吹き出し、石のかけらもつられて出てきます。これが地球に飛び込むと流星になります。

ふたご座流星群は、ふたご座の方向から飛び込んできます。毎年同じ時期に見える流星は流星群と呼ばれます。ふたご座流星群をもたらしたのは、ファエトンという天体です。実は彗星だったのが、氷が枯れてしまい小惑星に分類されているという変わり者です。

彗星は46億年前に誕生した太陽系の材料が、氷付けで保存されている天体です。あなたが見た流星は、46億年間の旅の終わりに、地球に突入した「最期の輝き」なのです。



[文・図の構成] 鈴木 文二(すずき ぶんじ)

日本天文学会、日本惑星科学会、天文教育普及研究会 会員、元NHK高校講座(地学)講師
主な著書 「天文学入門(岩波ジュニア新書)」 「彗星の科学(恒星社厚生閣)」

発行: ふくしまの宇宙(そら)プロジェクト

ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/fukushimahontonosora>

Mail milkyway@silence.name

代表および編集 佐藤 理絵

